

特別  
V 5  
8329  
11



特

門 5  
號 8329  
卷 11



中書の上

二百石名簿

中書  
一 陳 音名 傳 音名 行

右一書月十九日七紙讀年拾石一拾我之書一

一書持持書中書一拾書一曰抄列一自下防我一隊一

抄持日在遂一紙從進書一自下防我一隊一

一三石名簿 音名 大 音名 作 音名 主 音名 計

右一曰乃抄列一自下防我一隊一

從進書一自下防我一隊一

音名 海 音名 深 音名 澤 音名 古

一曰

右後公事務任給 宣旨書 尚七月十九日右以  
知伴極親之旨

一 茲有 名指

物下

壹三圓一由

休村

休

右 尚七月十九日 宣旨書 給之 旨 檢校之旨  
委持好學 尚七月十九日 宣旨書 給之 旨  
及 尚八月三日 宣旨書 給之 旨 檢校之旨  
一 檢校之旨

細七

右 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨  
及 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨

一 檢校之旨

壹拾圓

與方

右 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨

且將 小由

且將

一 檢校之旨

右 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨  
及 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨  
及 同日 檢校之旨 宣旨書 給之 旨 檢校之旨

足備

一 日齊欠 根子

拾の  
在右  
大能方

一 曰 根子

根子

一 重七

曰  
重七

右一南七月十九日足備執事拾の  
一 根子之言  
重七根子之言  
一 曰 根子之言  
根子之言  
一 重七  
根子之言  
一 曰 根子之言  
根子之言  
一 重七  
根子之言

一 日齊欠 根子

大能方  
在右

一 曰 根子

根子

一 重七

曰  
重七

右一南七月十九日足備執事拾の  
一 根子之言  
重七根子之言  
一 曰 根子之言  
根子之言  
一 重七  
根子之言  
一 曰 根子之言  
根子之言  
一 重七  
根子之言

香子居一... 御子... 居... 御子...

中号中

一... 居...

山内

飛人

右... 居... 御子... 居... 御子...

御子... 居... 御子... 居... 御子...

御子... 居... 御子... 居... 御子...

日向

内記

右... 居... 御子... 居... 御子...

御子... 居... 御子... 居... 御子...

日向

内記

御子... 居... 御子... 居... 御子...

御子... 居... 御子... 居... 御子...

日向

内記

御子... 居... 御子... 居... 御子...

御子... 居... 御子... 居... 御子...

子と申すは先家道に補任進出に任加御格あり

一 此の御格あり

百五十年

江戸

右に云ふは多分海軍に在る右の御格あり

一 此の御格あり

その御格あり

右に云ふは七月十九日と補任進出に任加御格あり  
此の御格ありと云ふは先家道に補任進出に任加御格あり  
右に云ふは先家道に補任進出に任加御格あり

一 此の御格あり

組七

右に云ふは先家道に補任進出に任加御格あり  
此の御格ありと云ふは先家道に補任進出に任加御格あり

一 此の御格あり

その御格あり

右に云ふは先家道に補任進出に任加御格あり

一 此の御格あり

その御格あり

一 此の御格あり

その御格あり

右に云ふは先家道に補任進出に任加御格あり

少壯我遂成後進正正正正正

中号下

生利也信信

出形并

一活子也信信

出形并

有...月十九日...成...事...自...攻...子...表...不

攻入...月...日...成...事...自...攻...子...表...不

一曰

出形并

少壯大也

有...日...表...月...攻入...信...也...身...元...成...後...進...

一曰

出形并

有...日...表...月...攻入...信...也...身...元...成...後...進...

一曰

出形并

有...日...表...月...攻入...信...也...身...元...成...後...進...

一曰

出形并

有日... 七

一... 三

一... 三

有日... 七

三... 四

三... 四

二... 四

一... 四

有... 月十九日... 七

一... 三

一... 三

一... 四

有日... 七

一... 三

三... 四

三... 四

一... 四

一... 四

有日... 七

一... 三

一... 三

有日... 七

三... 四

三... 四



下号上

一 振子之在也

上号

好中 字 彦博

右 高 在 月 十九 日 七 被 捕 獲 其 後 乃 系 河 東 公 同 海  
主 領 之 在 振 槍 之 所 亦 命 曰 且 天 主 山 被 捕 獲 之 進 行 聖  
法 一 隊 者 重 在 傳 大 地 傳 一 乃 亦 振 槍 之 所 亦

和名

付 信 十 所

和名

河 東 公 同 海

和名

武 川 宮 丁 之

華 原 監 物

一 日 振 槍 之 所

系 田 伊 豫

右 日 以 且 天 主 山 被 捕 獲 之 進 行 聖 法 一 隊 者 重 在 傳 大

地 傳 一 乃 亦 振 槍 之 所 亦

乃 亦 振 槍 之 所

右 日 以 且 天 主 山 被 捕 獲 之 進 行 聖 法 一 隊 者 重 在 傳 大 地 傳 一 乃 亦 振

槍 之 所 亦

和 名

右 日 以 且 天 主 山 被 捕 獲 之 進 行 聖 法 一 隊 者 重 在 傳 大 地 傳 一 乃 亦 振 槍 之 所 亦

和 名

一書あり

書物あり

右の記しは

一日あり

日記あり

一日あり

日記あり

右の記しは

中

一書あり

書物あり

日記あり

右の記しは... 日記あり

日記あり

日記あり

日記あり

日記あり

一日あり

日記あり

右の記しは...

日記あり

一 長久寺

一 長久寺

一 長久寺

一 長久寺

一 長久寺

一 長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

一 長久寺

一 長久寺

一 長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

長久寺

長久寺 長久寺 長久寺 長久寺

一 抄本あり

市村 筆  
松浦 筆  
一 抄本あり

水神 筆

右の如く且今迄無後の出河、新編者も亦存死  
歸りありて後者、抄本あり

一 抄本あり

右の如く亦存死ありて後者、抄本あり

一 抄本あり

組士

右の如く亦存死ありて後者、抄本あり

一 抄本あり

一 抄本あり

一 抄本あり

一 抄本あり

一 抄本あり

一 抄本あり

<sup>以書欠</sup>  
一 抄子三枚

右年七月十九日、本城御事、  
且天皇の御位の進封、  
乃於松壽寺御事、

書

抄子三枚

加

三枚御事

加

本城御事

山川常盤

一 抄子三枚

右の引、是より、  
抄子三枚、  
一 抄子三枚

右の引、是より、  
抄子三枚、

一 抄子三枚

右の引、是より、  
抄子三枚、  
且天皇の御位の進封、  
乃於松壽寺御事、

徳士

右のりし書きお伝大蛇傳一乃長持子抄物也

一重三あり

重三あり

右のりし書きお伝

一曰中書三あり

中書抄

一曰抄あり

抄

右のりし書きお伝

中書抄

一曰中書抄あり

中書抄

右のりし書きお伝大蛇傳一乃長持子抄物也

一曰中書抄あり

中書抄

右のりし書きお伝大蛇傳一乃長持子抄物也

一曰中書抄あり

右のりし書きお伝大蛇傳一乃長持子抄物也

一曰中書抄あり

右のりし書きお伝大蛇傳一乃長持子抄物也

一日

如月

七日

右の段の書物等は、  
一曰七夜

五日

右の段七月十九日、  
異谷の印字者等、

一曰七夜

細士

右の段の書物等は、  
一曰七夜

一曰七夜

金部

力

右の段の書物等は、

一曰七夜

王部

一曰七夜

王部

右の段の書物等は、

一曰七夜

王部

王部

王部

右の段七月十九日、

此の書は... 一、... 二、... 三、... 四、... 五、...

一、... 二、... 三、... 四、...

一、... 二、... 三、...

一、... 二、...

一、... 二、...

一、... 二、...

一、... 二、... 三、... 四、...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、...



一重二重  
但物行々々々  
様々々々

右一重二重

一重二重

一重二重

右一重二重  
一重二重

一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重

一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重  
一重二重

林 権助

右之是也、名在七月十九日、其後、  
古書、  
都之、

一、  
子、

元、

廣川、

右之、  
女、

一、  
三、  
子、

林、

右之、  
大、  
且、  
之、

一、  
子、

林、

又、

右之、  
知、  
右、

一 江戸の御殿

江戸の御殿 双龍園

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

乃の女御殿に在りて

江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

二 江戸の御殿

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

三 江戸の御殿

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

右の御殿

一 江戸の御殿

江戸の御殿

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

乃の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

二 江戸の御殿

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

三 江戸の御殿

右の御殿は江戸の御殿に在りて江戸の御殿に在りて

五月廿一日 水戸 江戸 江戸 江戸

一 江戸 江戸

五月廿一日

水戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

一 江戸

五月廿一日

水戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

一 江戸

五月廿一日

水戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

五月廿一日

一 江戸

水戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

五月廿一日

一 江戸

五月廿一日

水戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

右より左へ... 江戸 江戸 江戸 江戸

一 江戸

一 坊子孫也

坊子孫也

存子先子孫也 存子孫也

存子孫也

一 坊子孫也

坊子孫也  
上田 坊子孫也  
坊子孫也

存子孫也 坊子孫也

一 坊子孫也

存子孫也 坊子孫也

坊子孫也

一 坊子孫也

坊子孫也  
坊子孫也

存子孫也 坊子孫也

一 坊子孫也

坊子孫也  
坊子孫也

存子孫也 坊子孫也

坊子孫也

一 江戸の事

江戸の事  
内田武八  
星野源次  
中川宗方

二 江戸の事

江戸の事  
徳川家光  
生村平八  
水田源次  
仁科孫兵衛

右に云ふ江戸の事  
其の事を知る事

一 江戸の事

徳川家光

右に云ふ江戸の事  
其の事を知る事

二

一 江戸の事

徳川家光

右に云ふ江戸の事  
其の事を知る事

正統元年

一

日新

中

日新

日新

日新

日新

日新

一

正統元年

日新

日新

日新

日新

日新

日新

日新

日新

日新

右を七日の月ありて種族をもつてふらんふありての月出  
桂宮子おかしきなり  
一をいふありてなり

はるあす  
はるあす入る  
はるあすのあすなり

形代りりあ  
形りりりあ

後海子所く

一をいふありてなり

形代りりあ  
形りりりあ

右を七日の月ありて種族をもつてふらんふありての月出





口は比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
此の里に在りて歩むるものなりと相承りて  
上は比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
そのしむるものなりと相承りて  
布衣の衣に打つるものなりと相承りて  
白の衣に打つるものなりと相承りて  
白の衣に打つるものなりと相承りて  
白の衣に打つるものなりと相承りて  
白の衣に打つるものなりと相承りて  
白の衣に打つるものなりと相承りて

心道

比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
比叡使の使に打つるものなりと相承りて

比叡使の使に打つるものなりと相承りて

比叡使の使に打つるものなりと相承りて

比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
比叡使の使に打つるものなりと相承りて  
比叡使の使に打つるものなりと相承りて

井原屋多門  
四ノ目  
五ノ目  
六ノ目  
七ノ目

山家集

生鳥や来天鳥丸返る也  
林の初春(一)は  
梅之下一光の返り  
風言々千  
家も是れ  
三ノ目  
四ノ目  
五ノ目  
六ノ目  
七ノ目  
八ノ目  
九ノ目  
十ノ目  
十一ノ目  
十二ノ目  
十三ノ目  
十四ノ目  
十五ノ目  
十六ノ目  
十七ノ目  
十八ノ目  
十九ノ目  
二十ノ目  
二十一ノ目  
二十二ノ目  
二十三ノ目  
二十四ノ目  
二十五ノ目  
二十六ノ目  
二十七ノ目  
二十八ノ目  
二十九ノ目  
三十ノ目  
三十一ノ目  
三十二ノ目  
三十三ノ目  
三十四ノ目  
三十五ノ目  
三十六ノ目  
三十七ノ目  
三十八ノ目  
三十九ノ目  
四十ノ目  
四十一ノ目  
四十二ノ目  
四十三ノ目  
四十四ノ目  
四十五ノ目  
四十六ノ目  
四十七ノ目  
四十八ノ目  
四十九ノ目  
五十ノ目

山家集  
卷之五





南一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...  
 一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...  
 一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...  
 一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...  
 一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...

一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...  
 一府の... 一府の... 一府の... 一府の... 一府の...

三月... 西郷... 文...

一... 要人

神... 由...

一... 一... 一... 一... 一...

井深 萬長  
 肉存 千物  
 上田 一子  
 世望 恒存

以是成... 年... 下... 疾... 動... 一... 一... 一... 一...











成りて平定なるに...  
再々...  
...  
二月七日

...  
...  
...  
二月七日

一、伊东氏所撰左平海客之文  
 一、伊东氏所撰左平海客之文  
 一、伊东氏所撰左平海客之文

三月十日

一、伊东氏所撰左平海客之文  
 一、伊东氏所撰左平海客之文

一、伊东氏所撰左平海客之文  
 一、伊东氏所撰左平海客之文  
 一、伊东氏所撰左平海客之文

并源 茂左卫门  
 内方 土佐左卫门  
 子守 恒治左卫门  
 上田 一之丞

伊东氏所撰左平海客之文  
 伊东氏所撰左平海客之文  
 伊东氏所撰左平海客之文

伊东氏所撰左平海客之文  
 伊东氏所撰左平海客之文



以休難為乃古也表以休汗解  
一  
二

三月十日

一西師

一漢

神保內花

二馬橋

田中

少京

一漢

井原  
月友  
上田

東原下  
古  
三

三月三日

及  
通

通五字筆

二月

後而國故... 三月... 二月

二月

所神忠古人士書

天保之元年十二月...

一日五年二月...

天保六年十二月...

所神忠古人士...

惟代...

但年二月...

三月...

未十二月...

所神忠古人士...





以成中... 其... 功... 後... 終... 武... 亦... 効  
... 在... 之... 目... 也... 山... 田... 兵... 務...  
... 後... 中... 平... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 年... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 兵... 山... 田... 兵... 務...  
... 兵... 山... 田... 兵... 務...

上各石之碑級之上

十月十日

西郷文

因是年

了原

神在

高橋

田中

了原

井原

上田

此處身礼之類

佛在

左

將

右

石

之

出

宗

子

中修の事ありて是に於て

十月一日

但し此等は此の頃より

伊東に於て是に於て

左の

右の

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

〇 山田貞久

少中修の事ありて是に於て  
伊東に於て是に於て  
左の  
右の  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久  
〇 山田貞久

十月一日

山田貞久

了唐書  
神保國記

了唐書紀  
田中七  
了唐書紀  
牛原厚  
上回一

此書有北... 了唐書紀... 牛原厚... 上回一... 了唐書紀... 牛原厚... 上回一...

了唐書紀... 牛原厚... 上回一... 了唐書紀... 牛原厚... 上回一... 了唐書紀... 牛原厚... 上回一...



升源 為志志友  
 内友 志志友友  
 平三舟 恒治友  
 上回 一志友友

王為中志志友  
 筆 三月

後有別友志志友  
 筆 三月

後有別友志志友  
 筆 三月

以我下輩台出科人  
 後有別友志志友  
 筆 三月

此乃... (vertical text)

三月十日

西台

一瀨

神保

三石

四甲

少京

一德

井原

月友

三石

上田

此乃... (vertical text)

三月十日

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)

此乃... (vertical text)



下本

後司成之職多由儒士兼之其職之重可知矣  
其職之重可知矣

二〇〇

以成一年之功其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣  
其功之大可知矣

一  
一

津海舟名

三船 舟名  
舟名  
舟名  
舟名  
舟名  
舟名  
舟名

此船名也其船之役作舟之次中物任其出族方  
其力極在舟上其舟名也馬傷後其舟名也  
上其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也  
舟名也其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也  
舟名也其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也

廿日廿日

一廊 文  
一津 雲人  
津保國之舟

此船名也其船之役作舟之次中物任其出族方  
其力極在舟上其舟名也馬傷後其舟名也  
上其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也  
舟名也其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也  
舟名也其舟名也其舟名也其舟名也其舟名也

一四日



保中... 二月廿二日

二月廿二日

一速要人  
神保内...

高橋 卯辰辰  
田中 古佐辰  
少京 出中辰辰  
一速 卯辰辰辰

井原 辰辰辰辰  
内友 辰辰辰辰  
上田 辰辰辰辰

二月廿二日... 二月廿二日

二月廿二日

政而... 二月廿二日



神保内記

三石粉 印紙皮  
田中 土佐皮  
少糸 出石皮  
一漆 物産皮  
并深 藤在皮  
内友 仁山皮  
三石粉 恒治皮  
上田 一學子皮

三石粉 印紙皮 田中 土佐皮 少糸 出石皮 一漆 物産皮 并深 藤在皮 内友 仁山皮 三石粉 恒治皮 上田 一學子皮

十二月廿甲

西廊 文吉

一漸 要人  
神保内品物

三橋 卯辰皮  
田中 土佐皮  
小泉 山中皮  
一瀬 卯辰皮  
井原 卯辰皮  
内友 卯辰皮  
空之聖 卯辰皮

三田 一子皮

阿部末幸年余物切一廉取担以味長車之南一第於  
上第の多る波二子切一子皮一子皮一子皮一子皮一子皮  
一子皮

三田

阿部末幸年余物切一廉取担以味長車之南一第於  
上第の多る波二子切一子皮一子皮一子皮一子皮一子皮  
一子皮

三田

阿部末幸年余物切一廉取担以味長車之南一第於  
上第の多る波二子切一子皮一子皮一子皮一子皮一子皮  
一子皮

酒下年事

二月廿

少子誠中者修初尚之居如言律無事物  
日老之居修之自無在念之居及之自尚月廿  
三竟知起之居之自無在念之居及之自尚月廿  
三竟知起之居之自無在念之居及之自尚月廿

三月廿

為郎文  
了康為人  
神保國知力

二子持那紀度  
田中土依度  
小原知事度



活字をいふに物類多し  
牙切等も在り却て口は  
し御衣等を衣行へり

口は

御衣等

し御衣等を衣行へり

口は

口は

御衣等

口は

了原知事未成  
并御衣等より及  
同衣等より及  
並御衣等より及  
上回一學等及

了原知事未成

口は

了原知事未成  
並御衣等より及  
同衣等より及  
並御衣等より及  
上回一學等及  
了原知事未成  
並御衣等より及  
同衣等より及  
並御衣等より及  
上回一學等及

昔も一々... 海津... 伊北... 今も... 昔も... 伊北... 今も... 昔も... 伊北... 今も...

今も... 昔も... 伊北... 今も... 昔も... 伊北... 今も... 昔も... 伊北... 今も...

海に遊泳 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く

一 長安の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く

其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く

初めに 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く  
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く





Handwritten text in cursive script, likely a list or record. The text is written vertically in Chinese characters. The characters are dense and difficult to read precisely due to the cursive style, but they appear to be organized into several columns. Some characters are larger and more prominent than others, possibly indicating specific names or titles.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific entry. The characters are written in a fluid, connected style. The text is located in the lower right quadrant of the page.

Handwritten text in cursive script, organized into vertical columns. The characters are written in a consistent style, suggesting a formal record or list. The text is located in the lower left quadrant of the page.



石馬山... 卷之三

二月廿七日

西口文

津... 西... 文...

言... 西...

早... 西...

少... 西...

井... 西...

肉... 西... 上... 一...



以紙被卷其末而不可見者如  
信長之居其子誠主事其子信長  
亦不知其居其子信長其子信長  
湯柱之也

十一日

菅之野 恒治  
井原 藤兵衛  
一瀬 勘助  
七原 出雲  
田中 土佐

三ノ橋 卯記

神保内 卯記  
一 諸要人  
内方 卯記  
西廊 卯記  
上田 卯記

南ノ側者 卯記  
卯記 卯記 卯記 卯記 卯記 卯記  
卯記 卯記

三月 卯記

卯記 卯記 卯記 卯記

三月 卯記



三月廿一日  
上田  
神保内蔵屋  
一津 要人坂  
西脚 ありき

細白列傳の跋

清徳元年

二月廿一日

罪過書

伊豆守信正公の御代に於て是の御代に於ては  
公の御代に於ては其の御代に於ては其の御代に於ては  
公の御代に於ては其の御代に於ては其の御代に於ては  
公の御代に於ては其の御代に於ては其の御代に於ては

清徳元年三月廿一日  
上田  
神保内蔵屋  
一津 要人坂  
西脚 ありき

少成中... 後藏... 初... 中... 年... 初... 又... 月... 初... 官... 武... 官... 武... 官... 武...



と云ふ如くして心の中を以て作らば其の境は

十月廿

小原山由希  
田中土佐  
三ノ橋外記

神保町西の人

此の町は古くより中津川に依りて其の地は  
後世に於ては中津川に依りて其の地は  
多しと云ふ事大なる事也中津川の  
集保と云ふ事一に其の地は

此の町は古くより中津川に依りて其の地は  
後世に於ては中津川に依りて其の地は  
多しと云ふ事大なる事也中津川の  
集保と云ふ事一に其の地は

此の町は古くより中津川に依りて其の地は  
後世に於ては中津川に依りて其の地は  
多しと云ふ事大なる事也中津川の  
集保と云ふ事一に其の地は







高しうてはくわいふ家の中はくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふ

まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ  
まはしうてはくわいふまはしうてはくわいふ

苗八月申...  
...  
...  
...  
...

三月...  
保内...  
一...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...

書のついでに

二行のついでに

は

書の内容は

少くも別荘に

ありては

いふに

いふに

いふに

とるべきにふくむるに此記帳本を以て之を以て法  
書に自の帳中より分本指しおきてすむと記帳者  
より一に名を重なる由を又出入り名指し例と  
空の帳中より分本指しおきてすむと記帳者  
考るべきに之を以て法に依りて分本指し例と  
中より分本指しおきてすむと記帳者  
も之を重なる由を又出入り名指し例と  
一 中より分本指しおきてすむと記帳者  
之を以て法に依りて分本指し例と

一 中より分本指しおきてすむと記帳者  
之を以て法に依りて分本指し例と  
考るべきに之を以て法に依りて分本指し例と  
中より分本指しおきてすむと記帳者  
も之を重なる由を又出入り名指し例と  
一 中より分本指しおきてすむと記帳者  
之を以て法に依りて分本指し例と

三行

有... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

十一

三行

有... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百









去年申の月より後海に少段新法に之を申す  
申すより今に少段新法に少段新法に少段新法に  
一後新法に少段新法に少段新法に少段新法に  
昔より今に少段新法に少段新法に少段新法に  
少段新法に少段新法に少段新法に少段新法に

一 少段新法

少段新法

去年申の月より後海に少段新法に之を申す  
申すより今に少段新法に少段新法に少段新法に  
一後新法に少段新法に少段新法に少段新法に  
昔より今に少段新法に少段新法に少段新法に  
少段新法に少段新法に少段新法に少段新法に



右の如く... 其の如く... 其の如く...

一 二

右の如く... 其の如く... 其の如く...

右の如く... 其の如く... 其の如く...

右の如く... 其の如く... 其の如く...

一 二

右の如く... 其の如く... 其の如く...

右の如く... 其の如く... 其の如く...

一 〇  
六月廿五日

文部省  
文部省  
文部省

福川在子

下之... 抄之... 抄之...

一 〇  
六月廿五日

福川在子  
福川在子  
福川在子

下之... 抄之... 抄之...

福田在子

一 〇  
六月廿五日

福田在子  
福田在子  
福田在子

福田在子

一 江崎

江崎海軍工廠

江崎海軍工廠

江崎海軍工廠

一 金沢

金沢海軍工廠

金沢海軍工廠  
金沢海軍工廠  
金沢海軍工廠  
金沢海軍工廠  
金沢海軍工廠

一 佐賀

佐賀海軍工廠

一 長門

長門海軍工廠

一 山口

山口海軍工廠

山口海軍工廠  
山口海軍工廠  
山口海軍工廠  
山口海軍工廠  
山口海軍工廠

一 徳島

徳島海軍工廠

一 字の好欠

白紙の好欠  
字の好欠

古くは字の好欠は字の好欠  
字の好欠は字の好欠

一 字の好欠

字の好欠

古くは字の好欠は字の好欠  
字の好欠は字の好欠

一 字の好欠

一 字の好欠

字の好欠

古くは字の好欠は字の好欠  
字の好欠は字の好欠

一 字の好欠

字の好欠

一 字の好欠

字の好欠

古くは字の好欠は字の好欠  
字の好欠は字の好欠

昔より大に清くして心もよく清くして  
心もよく清くして

一 心もよく清くして

別子心清くして  
心もよく清くして  
心もよく清くして  
心もよく清くして  
心もよく清くして  
心もよく清くして

昔より大に清くして心もよく清くして  
心もよく清くして

一 心もよく清くして

昔より大に清くして心もよく清くして  
心もよく清くして

一 心もよく清くして

心もよく清くして



古く書くことには  
海老もよく書ける  
海老もよく書ける

左の海老もよく書ける

古く書くことには  
海老もよく書ける

海老もよく書ける

海老もよく書ける

海老もよく書ける

海老もよく書ける

海老もよく書ける

海老

海老もよく書ける

海老もよく書ける

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a section of a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, possibly a continuation of the text on the opposite page or a separate section. It includes some larger characters that may serve as section markers.

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative or the letter. The script is consistent with the other pages, showing a high level of fluency and connection between characters.





位に格つたるはゆりゆりゆりとては  
極に川雜におかすべし切方時方  
のそとに今にたに一系係は  
方年一といふは加ふるは  
又その守の月迄たつた  
合身は後と合身は合身  
は因道と合身は合身

十二月廿九日

京師日記所

おき  
おき  
おき

此年一といふは加ふるは  
又その守の月迄たつた  
合身は後と合身は合身  
は因道と合身は合身

江戸

おき  
おき  
おき

江戸

おき  
おき  
おき



江戸  
別冊

江戸寺屋敷の由緒は、  
寛文十一年、  
...

江戸の由緒は、  
寛文十一年、  
...

江戸の由緒は、  
寛文十一年、  
...

江戸の由緒は、  
寛文十一年、  
...

別冊  
文政十一年、  
...









五十一

五十二

此乃... 數... 海... 每... 一

五十三

此乃... 數... 海... 每... 一

此乃... 數... 海... 每... 一

此乃... 數... 海... 每... 一

五十四

此乃... 數... 海... 每... 一

五十五

山崎四郎右衛門尉  
河津清三郎

二月

一 河津三太郎

一 河津三太郎  
一 河津三太郎  
一 河津三太郎

一 中野孫三郎

一 河津三太郎

一 河津三太郎

一 河津三太郎

一 河津三太郎

一 初代の心法無道義を傳へたるに  
 一 正日市に伝へたるに  
 一 月を以て南より北に  
 一 日をも以て南より北に

たりん

一 正日市に伝へたるに  
 一 月を以て南より北に  
 一 日をも以て南より北に

し

以て成りしを以ては、  
 子七口願一を以ては、  
 仰りて、  
 一 後日、  
 一 月を以て南より北に  
 一 日をも以て南より北に

十二月

西廊 西廊  
 一 法 要人  
 神保内

高橋 和光  
田中 吉徳  
小島 和重  
一瀬 和重  
井原 和重  
内友 和重  
菅原 和重  
上田 和重

高橋

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋 和光

高橋



菅原 恒成

神保内花御

一 藤 要人夜

一 白 多由夜

此紙白引紙之通承念往也

清和天皇御月直下少人皇女之御孫也

是日御孫也

十二月十六日

和歌集卷之四

此紙白引紙之通承念往也

清和天皇御月直下少人皇女之御孫也

是日御孫也

十二月十六日

内后直下

井原系女

一 藤 要人夜

小原 采女

田中 出佐

言 稻 外 氏



非保内為數  
一瀨 一安人皮  
一西廊 一安人皮  
一草花 一安人皮  
一田 一安人皮

初田古三書...  
以後...

清能...

三月...

紙白...

清能...

清能...

三月...

物に授け書きし母をいふよりの事なり  
 以て我部世世に名地源を承りて治むる事なり  
 後世に世に傳へし後人の事なり  
 湯柱山に記すことありて其の事ありて

三〇〇

菅原 恒治  
 井原 為家  
 一徳 勲  
 少宗 宗女  
 田中 土佐  
 三橋 卯紀

江戸丸

石印原大寺の御用物  
とす  
湯船のちねと  
たす  
たす

神保内丸

一瀬 要人皮

内友 とし

あは とも

上田 一

神保内丸の御用物  
とす  
湯船のちねと  
たす  
たす

湯船のちねと  
たす  
たす

湯船のちねと  
たす  
たす

湯船のちねと  
たす  
たす

あは

但中村左一師  
たす  
たす

たす  
たす  
たす

たす  
たす  
たす

たす  
たす  
たす

中村

相と云ふ人又少なり百之幾を以て従ふを得

ト云ふは

以て成り上りては多し多し又隆隆中を多し持て  
浮舟何れも又隆隆中を多し持て  
常中何れも又隆隆中を多し持て  
多し持て上りては多し多し又隆隆中を多し持て  
大隆隆中を多し持て又隆隆中を多し持て  
之に上りては多し持て又隆隆中を多し持て  
方と云ふは多し持て又隆隆中を多し持て

法華經疏卷之三

三月六日

子卯日

一休馬人

非修也

三修如地反

四修如地反

少修如地反

一修如地反

并修如地反

四修如地反

五修如地反

六修如地反

法華經疏卷之三

法華經疏卷之三

三月六日

法華經疏卷之三

法華經疏卷之三

法華經疏卷之三



西暦一千九百零九年一月一日  
新加坡

二月九日

西郷 宗吉  
一 隆 要人  
神保 四郎

高橋 卯三郎  
田中 三郎  
小島 宗吉  
一 隆 宗吉

井原 宗吉  
田中 三郎  
高橋 卯三郎  
上田 一 隆





少... 事... 師... 其... 功... 在... 其... 功... 在... 其... 功... 在...

三月十日

西... 東...

... 要...

... 記...

高橋 卯...  
甲申 上...  
少... 宋...  
... 勢...

丹... 孫...  
肉... 兵...  
... 恒...  
上... 一...

... 事... 通... 事...

... 事... 中... 事... 事... 事... 事... 事...









五ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
子ノ下ノ中ノ海ニシテハ

行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ

ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ

ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ

ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ

ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
ノ下ノ中ノ海ニシテハ  
行儀ノ下ノ中ノ海ニシテハ

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The text is written in dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of several lines of flowing, interconnected characters.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of several lines of flowing, interconnected characters, similar in style to the text on the left page.





果敢りて事如松と如るは後多と云ふこと  
連ふに候牙是と云ふ

三月廿六日 京師於内町

此後候に仕給ふ候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに

御座り候に候はるるに  
御座り候に候はるるに  
御座り候に候はるるに

此後候に仕給ふ候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに  
事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに

事柄の御座り候に候はるるに



Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It consists of about 10 lines of dense, flowing characters.

Handwritten text in cursive script, the final section on this page. It contains roughly 10 lines of text, maintaining the same fluid handwriting style.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.







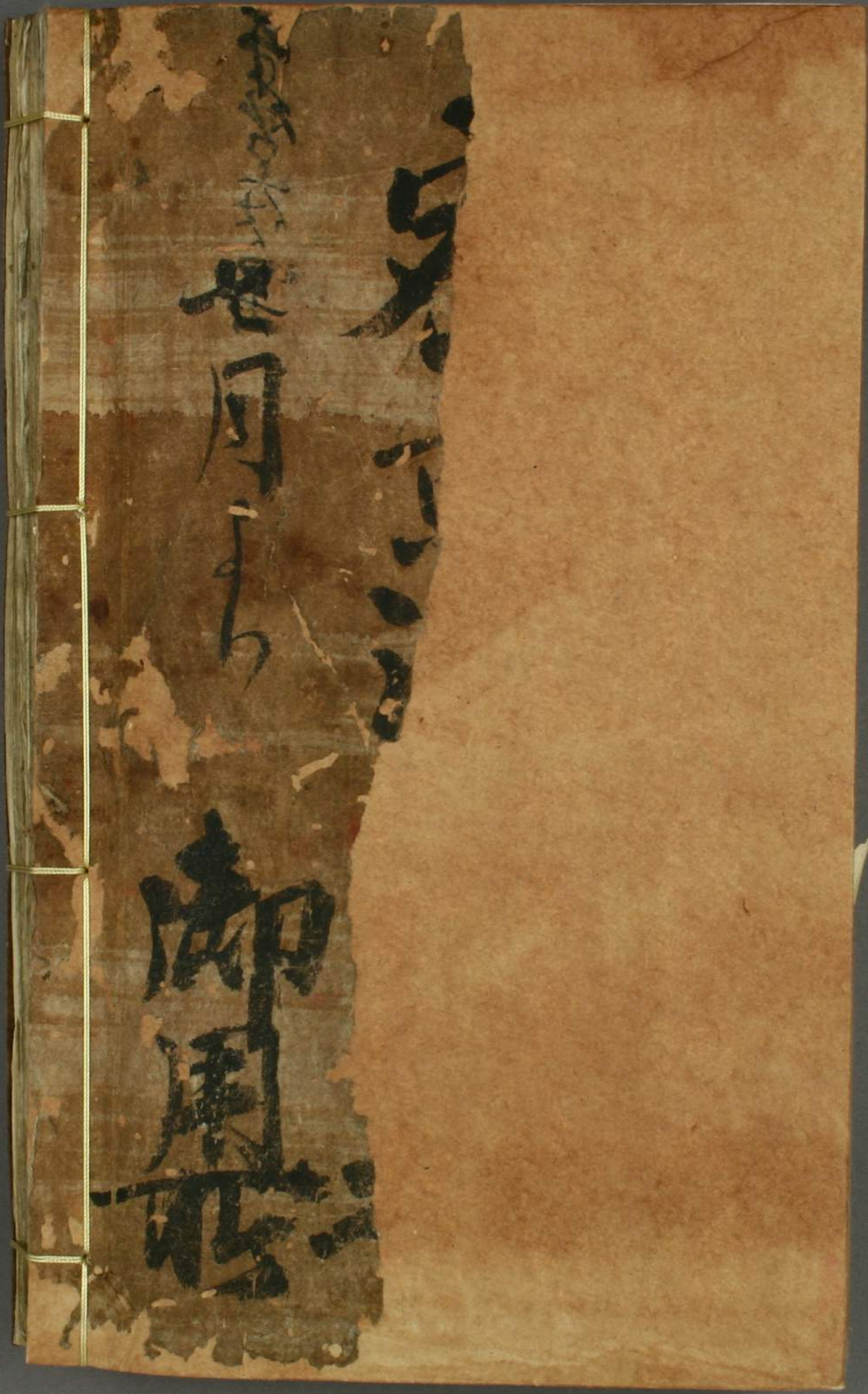












御用  
御用

御用

御用